

## 瞑想の効果

平和統一 NEWS No.67 (2014/3月号)

渡辺 久義

デイヴィド・ウィルコックの『根源の場の研究』を最初に読んだとき、最も私の注意を惹いたのはこの部分だった——

「2年にわたって、約7千人のグループが3度会合し、彼らはこの会合の間に、世界中のテロ行為を、72パーセントという驚くべき割合で減らすことができた。・・・彼らはいったい何を行ったのだろうか？ これらの人々は集まって、愛と平和の思いを込めて瞑想しただけだった。覚えておいてもらいたいが、これは科学研究であり、専門誌「犯罪者リハビリテーション・ジャーナル」に載ったもので、彼らはテロのサイクル、傾向、天候、ウィークエンド、祝祭日、その他あらゆる変動因子を除外した。だからテロリズムの72パーセントの減少は、彼らの瞑想によって起こったものであって、他の原因によるものではありえない。」

私はこの本を世界日報に紹介したとき（「発想転換が起こす時代転換」2012/11/20）、この部分を引用した。著者自身もこのエピソード（同じような実験が他に数十例あるという）を特に重要と思っているらしく、『シンクロニシティ・キー』を含めたその後の書きものに、これを何度も引いている。

これは我々の心が、一般の想定に反して実は繋がっていること、従って自分が（できれば集団で）愛と平和と許しの思いに集中するならば、それは他者をも動かし、逆に他者を苦しめるなら、自分も苦しむことになるという確実な証拠である。要するに宇宙全体が、一つの生命体として繋がっているということである。

彼は最新のブログ記事「ルシファーの正体を暴く」（創造デザイン学会サイトに和訳あり）でもこの実験に言及し、「もしそうだとしたら？ ではなぜそうしないか？」と世界の人々に問いかけ、行動を促している。こんな簡単なことをなぜやってみないのか？ これだけ残忍なテロや内戦がいつまでも後を絶たず、これを断つためなら、何でもやってみようという人々は世界中に少なくないはずである。なぜそうしない？

理由ははっきりしている——どんな報道機関もこれを報道しないからである。彼らは報道

しないどころか、こういうものを隠そうとする。学界もこういう“科学に反する”ことは認めない——科学専門誌に載ったにもかかわらず。彼らは肉体が別々である以上、心も別々でなければならないという、唯物論的前提をいまだに死守している。私はこの間の事情を、ID論争を通じてよく知っている。その前提が事実には合わないだけでなく、たとえそのために人が死んでも、彼らは立場を変えない。この欄ですでに指摘したように、我々より目の見える人々によって「イルミナティに支配された主流科学」などと指摘されても、彼らは恬としてこれを無視する。当のイルミナティ自身はルシファー信者であって、唯物論者などでないことは、上記ウィルコックの記事が明らかにしている通りである。科学のとする唯物論は、彼らが我々を支配するための、この上なく重宝な道具である。一つは人間蔑視の思想として、もう一つは我々の霊的進化を妨げるための牢獄として。

「何？ 霊的進化？ おい、霊的進化だよ、この男は何が専攻か知らないが、科学の力の字も知らない馬鹿だぜ。」これまでは、こういうことを言うメディア・学者連合体を、単に人間の成長の足を引っ張る者として、大目に見ることもできた。しかし先月ここで論じたケムトレイル/気象操作のような、明らかに邪悪な、地球/人間破壊計画を無視したり、その隠蔽に組織的に加担したりするのは、歴とした犯罪である（前記サイト参照）。彼らの恥ずべき、呆れるばかりのウソは、良心的学者たちの使う比喻で言えば、「居間に入ってきた象が見えないと言っているようなものだ」。この計画を進めている者自身が、ルシファーの霊的力を信ずる者たちである——

「(高位のインサイダーたちから) 私が聞いているところでは、いわゆるイルミナティを運営している人々は、実は下っ端で、ネガティブな方向性をもった、肉体を持たない“地球外”存在たちのために働いている。・・・こうした者たちは、実は地球を恐怖の養殖に使っている。これが〈陰謀団〉の行動の多くが、人間的観点からは、全く意味をなさないように見える理由である。」

これほど露骨ではないが、もっと隠微な形でメディア・学界連合体が“彼ら”に協力している例はよくある。例えば京大や阪大のような所で、ダーウィン進化論にとって有利なように見える論証をする者がいると、必ずNHKや新聞がニュースでこれを取り上げる。しかしこうしたものは必ずその時限りで消えてしまう。当たり前だ。また読売新聞などは(他紙は知らない)、全く藪から棒に「ローマ・クラブ」の解説をしたりする。ごく最近はアメリカの「連邦準備銀行」の“正しい”説明記事を載せた。なぜ今これが必要なのか？ それは、いま世界がようやく目覚めて、これらに対する不穏な不信の空気が強まっている、どうか“陰謀論”にはくれぐれも乗らないように、という趣旨——いわゆる「思想的引き締め」であろう。